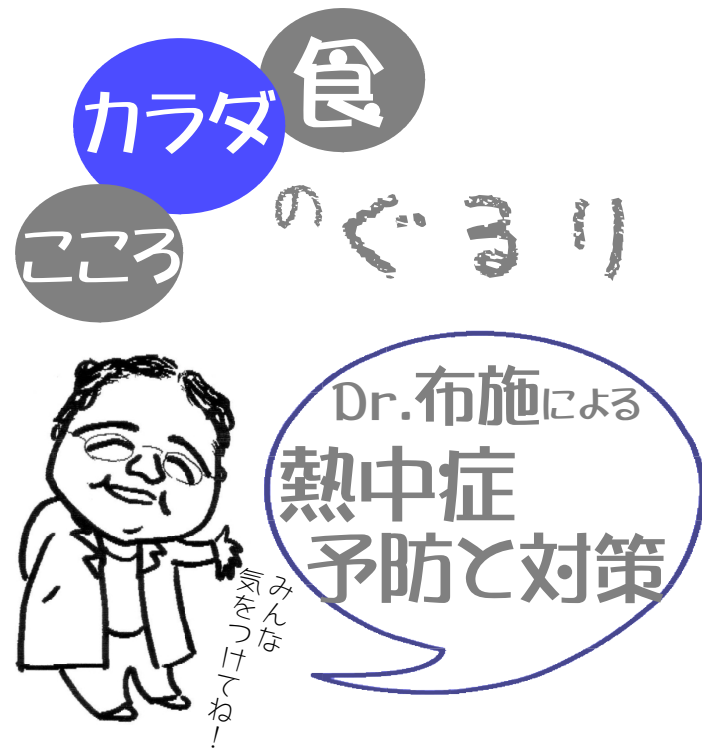




<熱中症になった場合>

自分がなった場合

自力で水分摂取が可能であれば、風通しのよい涼所に移動し、体表面を水で濡らして、塩分入りの飲料を飲みましょう。

まわりの人がなった場合

①首・わきの下・股関節のあたりなどの大血管部位を冷やします。

②足を挙げ、手足を末端から中心部に向けてマッサージします。

※自力で水分摂取が不可能な時などは、迷わず医療機関を受診しましょう。

<予防するには・・・>

- ・高温多湿な環境を、空調・扇風機・日よけなどで改善しましょう。
- ・運動前に睡眠不足・下痢や発熱性疾患などの体調不良を確認しましょう。
- ・前日の飲酒や朝食抜きを避けましょう。
- ・運動前から塩分入りの飲料を飲みましょう！

※特に、高齢者の方はノドが渴いていなくても、水分補給をしましょう！

※久しぶりに暑い中で活動するときは、注意が必要です！



<熱中症になりやすい状況>

熱中症は、暑い環境のみで起こると思われがちですが、スポーツや仕事などで筋肉から大量の熱を発生する場合や、脱水などの影響により寒い環境でも発生します。

激しい運動や作業を始めた初日に起こりやすいです。また乳児、高齢者、肥満者、飲酒の翌日などで下痢や脱水状態の人、睡眠不足の人、食事を抜いている人、吸熱性/保熱性のある服を来ている人に起こりやすいです。

お知らせ 福島市民検診 早めに受診しましょう！

※受診は10月31日までです

ふくしま共同診療所では、以下の検診もできます

肝炎ウイルス検診/大腸がん検診/肺がん検診/前立腺がん検診/骨粗しょう症検診

編集後記

「震災後初の海開き」「2年4ヶ月ぶりの〇〇祭の開催」…。"震災後初" "2年ぶりの開催"-多くのイベントが催されるこの時期、頻りに耳にする言葉。その一方で甲状腺がん多発。

私たちが「日常」へと引き戻す巨大な力がどんなに働いても"福島の実"を「なかったこと」にはできない。

福島の実と人々の思いが交差する診療所へ。(くら)



家族 勢ぞろい!

新しいマスコット どうぞよろしくおねがいします♪

ふくしま共同診療所 Newsletter



第2号 季刊-夏号-

診療時間：9：30-12：30/15：00-18：00

	日	月	火	水	木	金	土
午前	●	●	●	-	●	●	●
午後	●	-	●	-	●	●	●

診療科目：内科/放射線科/循環器科/リウマチ科

〒960-8068

福島市太田町20-7 佐周ビル 1階

TEL:024-573-9335 FAX:024-573-9380

福島県内で小児甲状腺がん多発

院長 松江 寛人

<福島の子ども27名 甲状腺がん疑い>

県民健康管理調査の検討委員会は、平成23年と24年度の18歳以下の甲状腺検査で甲状腺がんが確定した小児が12名、およびがんの疑いが15名であることを公表しました。その上で「現時点で福島の甲状腺がんは原発事故による放射線の影響とは考えられない」と述べています。

その根拠として、チェルノブイリでの甲状腺がん発生は原発事故後4～5年であったことをあげ、福島において原発事故後2年で甲状腺がんは発生するはずがなく事故以前にすでにがんがあったと説明しています。

しかし、チェルノブイリでは事故が起きた1986年の2年後から甲状腺がんは発生し、4～5年後あたりから急速に増加しています。原発事故の4～5年後に甲状腺がんが発生したのではなく、1990年以前にはチェルノブイリに現在用いられている超音波診断装置がなく、甲状腺がんの発見診断が遅れたと考えられます。

<被ばく線量との相関を明白にすべき>

県民健康管理調査の検討委員会の為すべきことは、放射線被ばくの影響を否定することではなく、小児甲状腺がんの多発に対して県民の健康を守るための対策に全力を挙げることです。その第一歩は、小児甲状腺がんが異常多発していることを全県民に広く告知し、健康を守る検診体制を講ずることではないでしょうか。

放射線被ばくによる健康障害は多種多様にわた

り、数年後、数十年後に及びます。したがってすべての医師や医療機関だけでなく、県民の参加を得て、希望と意向がうまく反映される健康管理体制の抜本的改革が必要です。被ばく線量と健康管理の「調査結果」との相関を明白にすべきです。

ふくしま共同診療所は誠心誠意の診療を行っております。そして被ばくによる健康障害の隠ぺいを許さず、真実を明らかにするために活動しています。

県民の皆様、検査、診療、様々な相談に、ご来院ください。

ふくしま共同診療所 報告会

と き：9月8日(日)

13時～16時30分

ところ：コラッセふくしま3階企画展示室

JR福島駅西口徒歩3分

<報告> ふくしま共同診療所 医師より

「開院から9ヶ月

甲状腺エコー検査から見てきたもの」

<お話> 崎山 比早子 医師

「原発事故による健康障害」

プロフィール

医学博士/マサチューセッツ工科大学研究員

国会事故調査委員会委員として

「低線量放射線の健康影響」を担当

お母さんの

アンテナ

今回は、福島市から米沢市に避難中のお母さんからです

子どもの命を守りたい 信頼できる医療を求めて

昨年11月10日、福島医大による子どもの甲状腺検査結果説明会に行ってきました。「福島の子ども1人が甲状腺がん」のニュースが9月に放送された後でした。

その説明会で、福島医大の鈴木真一教授は、「チェルノブイリでは、原発爆発の4～5年後に子どもの甲状腺がんが増えたので、今回の子どもは放射能の影響ではない。」「甲状腺がんは、予後の良いがんです。その後の生存率も高い。」と言いました。

ふざけるなと思いました。チェルノブイリでは、6～7人に1人が肺に転移していたと聞いています。「予後が良い」と言われて安心する親がいるのでしょうか。

NHKが、原発爆発後に高濃度の放射性ヨウ素が福島県内を流れたと、深夜に放送していました。その時、福島医大の医師や看護師は、甲状腺がんを防ぐために安定ヨウ素剤を飲んでいただとも聞きました。

まわりにたくさんの子もたちもいたのに、せめて外にだすなと言ってくれたら。そんな人たちに「安全です、大丈夫です」なんて言われたくないです。

県内にはいまだに検査が実施されていない地域があります。郡山市では、二次検査の必要な子どもたち400名以上が、検査が終わっていません。それなのに、先月には、甲状腺がんの疑いも含めて27名に増えています。

私は、福島医大の健康管理調査が信用できないので、ふくしま共同診療所で子どもの甲状腺検査を受けました。エコー検査も検査結果の説明も時間をかけて丁寧なものでした。結果は、のう胞があったので、「6ヶ月後にまた検査に来なさい」との診断でした。

次回の検査は2年後でいいという福島医大には、本気で子どもたちの命を守る気があるのかと怒りを感じています。

ひさくんによる 看護師さん



休日は温泉へ！
好きな色は
ピンク♡

佐々木 富士子さん

<福島の皆さんに愛される診療所へ>

私は以前、お年寄りが利用するデイサービスで働いていたからか、年上の男性には気軽に飛び込めるので(笑)可愛がってもらえると云うかすぐお友達になれます。

診療所には多くのスタッフが関わっているので、みんなの個性発見がとても楽しいです。ある種、他では味わえない特権ではないかと思っています。

地元のこと、家族のことなど何でも構えずに話ができる、子どもからお年寄りまで誰でも来れる診療所にしたいです。心の問題のお世話も含めて対応したいと思っています。

趣味は
散歩・映画鑑賞
毎晩、愛猫スズちゃんを
私の帰宅を待っています



馬場 令子さん

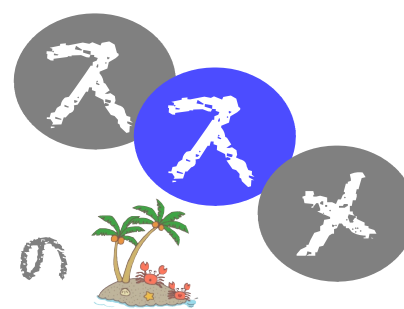
<不安を受け止めることができる診療所へ>

これから5年10年と経つにつれてさまざまな健康障害が出てくることが予想されるのに政府も自治体も対応していません。だからこそ、患者さんと向き合う診療所は希望であり、そこで仕事ができるのは、とても光栄です。

今、診療所に来る患者さんでも他の医療機関や家族関係友人関係などの人間関係のなかで放射能恐怖症、神経症とかのレッテルが貼られたと思い悩む方などが大勢います。そんな方々の不安とかを受け止める事が出来る診療所にしたいと思っています。地域のすべての人々と共にある診療所でありたいと思っています。

夏休みだから・・・

保養



NHKの番組内で、こんな風に紹介されている場所です。
～へっつい家、ここは、第二の我が家、放射能への不安を感じる子が安心して暮らせる場所～

この春休みは福島、茨城から13人の親子が、保養に来ていました。一つの屋根の下での協同生活、多人数で囲む家族のような食卓。食べ物の不安からも解放・・・



最初の番組の一コマには、稔君が風呂焚きを教わる場面があります。

普段、マッチを使う生活などしてないので、ゴム付きのゴツツイ手袋をして、火をつけようとすると、関さんに笑われます。「怖いんだもの」でも、次の番組では、普通の軍手に変わってました。やはり、保養にきた中学生が稔君に、「俺にも教えて」と風呂焚きを申し出ます。その姿を、小学生がジッと眺めています。暮らしの知恵のリレーが始まっています。



この夏休みは
私たち家族も
保養に
行きます！

へっつい家 お問い合わせ先

*福島サポートネット佐渡
<http://saponet-sado.jugem.jp/>
電話090-6625-4022 E-mail:saponet.sado@gmail.com

放射能から離れ、思いっきり遊ぶ。
好きな時間を過ごす！
夏休みならではのことができます。
心にもカラダにもいい保養を、
何とか実現できたらいいですね



番組はこちらで見ることができます
<3.11反原発福島行動ブログ「そうだ！保養に行こう」>
<http://fukushimaaction.blog.fc2.com/blog-entry-107.html>

佐渡 へっつい家

佐渡ヶ島、へっつい家は、関久雄さん(りょうぜん里山学校職員)が島の人たちの協力を得て、開いている保養所です。古民家を、みんなで再生し、よりたくさんの人を迎え入れようと、子どもたち自らも作業をします。その中心となっているのが、福島市の中学生遠藤稔君です。一番最初の頃から、一人でやって来て慣れぬ作業を頑張っていました。その様子が、NHK新潟で2つの番組になり、全国にも拡散されて話題になっています。その一部を写真とともに紹介します。

若いお母さんが、小さい我が子の体を心配している会話を聞いていて、「母親が、苦しい思いをしていることが良く分かった」他の子も、少しでも母親達の力になろうと、代わる代わる小さな子の面倒をみようとしています。

外では、小さな子も一緒にボール遊び。本当の兄弟のよう雰囲気です。

ここに来るまでは全く知らない者同士が、保養生活で、心もカラダもひときわたくましくなっている姿がありました。



*NPO法人りょうぜん里山がっこう
<http://www.date-satoyama.com>
電話024-587-1032 Fax024-587-1082

※へっつい家は通年利用できます！